

請 願 文 書 表 (平成28年11月30日定例会提出)

請願第21号

子どもの未来を守るため、横井町山林への新斎苑建設計画の白紙撤回を求める請願書(市民環境委員会付託)

平成28年10月21日受理

請 願 者 ●●●●●●●●●●

鹿野園自警団

団長 山口 洋 信 外2名

紹介議員 今 西 正 延

仲川市長自身が白紙撤回された横井町山林を再度候補地に選定され、今年1月に奈良市新斎苑建設基本計画(案)が突如公表されました。鹿野園町の住民にとっては寝耳に水の話であり、住民置き去り・住民無視の計画であることは言うまでもなく、住民をないがしろにした計画を推し進める市の行為は、地域住民の信頼を奪うだけでなく心情をも踏みにじるものであります。現在に至るまで、横井町山林がなぜ候補地になったのか十分な説明すらありません。

学識経験者等から成る奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会の候補地選定においては、基本条件として、自然公園地域や災害の危険性がある地域は避けるとされています。新斎苑の候補地は、大和青垣国定公園内であり、土砂災害警戒区域及び保安林を含み、活断層からもほど近い場所にあります。市民感覚からすれば、横井町山林を候補地に選定すること自体が誤りなのです。

鹿野園自警団は下記の理由により横井町山林に新斎苑を建設することに強く反対し、地域コミュニティを守るため、そして子供を交通事故や災害、風評被害から守るため、奈良市新斎苑基本計画は白紙撤回されるよう請願いたします。

1. 鹿野園町を守る者の立場として

奈良市は新斎苑建設に関する複数の報告書を公表し、建設問題なしと計画を推進しています。しかし、平成28年10月11日付「奈良市新斎苑建設に係る第三者評価について」においても“限られた調査では詳細な事項までは言及することはできない”や“懸念はないと思われる”など、抽象的な表現が数多く含まれます。離れた地域にお住まいの方からすれば「懸念が小さいのだから大丈夫」と思われるかもしれませんが、地域住民からすればこれらの報告は“懸念がある”ことを印象づけられるものです。

奈良市が「横井町山林に新斎苑を建設する事業自体が、鹿野園町に地すべりや土石流を引き起こす危険はほとんどない」と発言することは、“建設に伴う危険が排除できない”ことを認めています。また市は、大規模な地震や局所的な集中豪雨が発生した際の地元への被害想定は研究されておりません。一部の問題のみ調査し、「新斎苑建設による影響は考えられません」と世に知らしめる行為は、地域の安全を考えた建設計画とはほど遠いものであり、かつ市民に大きな誤解を与えるものです。

災害や事故が起こったときによく耳にする言葉があります。専門家が「全く想定していなかった」「予測は難しい」と発言されることです。“思われる”を初めとする曖昧な表現が使われた報告はもう要りません。安全・安心を保障してもらえなければ、鹿野園町民は建設がもたらすリスクを一生背負い続け、生活することになるのです。地域で生活している者からすれば「想定外」は許されないのです。

平成4年には鹿野園町内で大規模な地すべりが発生しました。過去には水害に対応している団員がけがをしたこともあります。我々は、“共助”の基礎となる地域コミュニティの強化に努め、地域の災害を予防することを使命としています。奈良市が新斎苑建設計画を推進することは、鹿野園町の地域コミュニティを崩壊に向かわせています。この地域を守るため、また、子供からお年寄りまでお互いに助け合い、支え合い、親睦を深め合い、仲よく安心・安全に暮らすことができるよりよいまちにするために、横井町山林に新斎苑が建設されることを断固拒否します。

## 2. 未来を担う者の立場として

「地元の不安解消のために」と市は一方的に調査を行い、多額の税金が投入されています。土砂災害の危険や断層の影響のある土地に建設を計画しなければ必要のない調査が、数多く含まれているのです。さらに、リスクのある土地に建設することは将来にわたり調査等の費用負担を永続的に発生させます。新斎苑は災害の危険性のある地域を避けた場所に建設し、市民の貴重な税金の使い方を見直し、未来世代に負担を負わせることは避けなければなりません。

自警団員の多くは父親の世代であり、子供は鹿野園町の次世代を担う大切な宝です。鹿野園町の子供の数は、10年前と比べて54%も減少しています。まちづくりの視点が欠如した新斎苑が、鹿野園町のすぐそばに建設されれば地域の魅力が低下し、“出て行った住民が戻ってきたい、新しい住民が住みたいと思えるまち”から遠ざかることは明白です。また、現在の東山霊苑火葬場と異なり、奈良市が所有することになる土地に建設されることで、未来永劫に火葬場を背負い続けることとなります。風評被害の重荷を一生背負うこととなります。地域に生きる住民として、自分たち、そして愛する子供たちの未来を犠牲にする新斎苑の建設は、到底受け入れることはできません。

また、鹿野園町内の市東部第285号線と新斎苑が結ばれることにより、葬儀関係の車両の通行のみならず、通り抜け車両の増加が容易に予想されます。騒音や治安の悪化も引き起こします。工事車両の通行による危険も懸念されます。

奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第16条において「市、保護者、地域住民、子どもが育ち・学ぶ施設の関係者及び事業者は、子どもを犯罪、交通事故、災害の被害その他の子どもを取り巻く有害及び危険な環境から守るための安全な環境づくりに努めるものとする。」と規定されています。奈良市及び計画に賛成する一部の者は、子供を危険な環境に追いやりようとしていますが、自警団員は一人の父親として、人間として、子供を危険な環境から守ることを最優先し、横井町山林に新斎苑が建設されることを断固拒否します。